

# CASBEE®-建築(新築)

# 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2024年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2024\_v1.22

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	株式会社工務局 京都第二工場 建築技術コイダリシリカ製造設備(第1期)建設工事	階数	地上9F、地下0F
建設地	京都府福知山市長田野町2丁目8番1号・2号	構造	S造
用途地域	工業専用地域、法22条指定区域	平均居住人員	14人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2029年2月 予定	評価の実施日	2026年4月23日
敷地面積	9,027 m <sup>2</sup>	作成者	株式会社大本組 丸尾浩文
建築面積	1,547 m <sup>2</sup>	確認日	2026年4月23日
延床面積	8,657 m <sup>2</sup>	確認者	株式会社大本組 丸尾浩文



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)	2-2 ホールライフカーボン(温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
<p>BEE = 0.7</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★</p>	<p>標準計算</p> <p>① 参照値: 100% (kg-CO<sub>2</sub>eq/年・m<sup>2</sup>)</p> <p>② 建築物の取組み: 93%</p> <p>③ 上記①②以外の: 73%</p> <p>④ 上記①: 73%</p> <p>このグラフはLR3.1「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたWLC排出量の目安で示したものです。④は参考として運用分をBEI+で表示しています。</p>	

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
Q 環境品質 (Qのスコア = 2.4)		
<p>Q1 室内環境 (Q1のスコア = 0.0)</p> <p>音環境: N.A. 温熱環境: N.A. 光・視環境: N.A. 空気質環境: N.A.</p>	<p>Q2 サービス性能 (Q2のスコア = 2.8)</p> <p>機能性: 2.9 耐用性: 2.7 対応性: 2.0</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内) (Q3のスコア = 2.1)</p> <p>生物環境: 1.0 まちなみ: 3.0 地域性・地域環境: 2.0</p>
LR 環境負荷低減性 (LRのスコア = 3.0)		
<p>LR1 エネルギー (LR1のスコア = 2.8)</p> <p>建物外皮の: N.A. 自然エネ: 3.0 設備システ: 2.9 効率的: 2.8</p>	<p>LR2 資源・マテリアル (LR2のスコア = 3.2)</p> <p>水資源: 3.4 非再生材の: 3.0 汚染物質: 3.7</p>	<p>LR3 敷地外環境 (LR3のスコア = 3.2)</p> <p>地球温暖化: 4.0 地域環境: 2.8 周辺環境: 3.0</p>

3 設計上の配慮事項		
<p>総合</p> <p>京都府福知山市に建設される自社工場の計画である。外皮性能を高め、高効率な設備機器の導入により環境負荷の低減を図るとともに、WLC排出率の低減に努めている。</p>		その他
<p>Q1 室内環境</p> <p>評価対象外。</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>耐用年数の長い内装材を採用し、建物の耐用性の向上に配慮している。</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>周辺のまちなみや景観に対して配慮している。</p>
<p>LR1 エネルギー</p> <p>全面的なLED照明の導入など、高効率な設備システムを導入することで省エネルギー化を図っている。</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>OAフロアの採用によって部材の再利用可能性向上を図り、躯体と仕上材の分離を容易にすることで、解体時におけるリサイクルを促進させる対策がある。</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>燃焼機器の設置をなくし、大気汚染防止に配慮している。</p>

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■ 「ホールライフカーボン(WLC)」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の温室効果ガス排出量のこと。ここでは、建築物の寿命年数で除した年間温室効果ガス排出量で表示。  
 ■ 評価対象のWLC排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される